■掲示板

□国内外の関連会議情報

開催期間	行　事　名	開催場所	関連ウェブページ
2019 年			
11/11–15	ARW2019—7th Accelerator Reliability Workshop	Guangzhou, China	http://arw2019.ihep.ac.cn/
11/13–15	第35回 PIXE シンポジウム	東京都市大学二子玉川夢キャンパス（東京都世田谷区）	http://www.nuc.tcu.ac.jp/nhagura/PIXE2019/index.html
11/21–22	第16回 高輝度・高周波電子銃研究会	高エネルギー加速器研究機構つくばキャンパス2号館大会議室（茨城県つくば市）	https://conference-indico.kek.jp/indico/event/90/
11/25–27	2019 年度ビーム物理研究会・若手の会	大阪大学産業科学研究所（大阪府吹田市）	https://www.sanken.osaka-u.ac.jp/BeamPhysics2019Osaka/
12/17–18	第26回 FEL と High-Power Radiation 研究会	広島大学放射光科学研究センター（広島県東広島市）	http://www.hsrc.hiroshima-u.ac.jp/symposium/FEL-HPR26/
2020 年			
5/10–15	IPAC20—The 11th International Particle Accelerator Conference 2020	Caen, France	http://www.ipac20.org/
8/4–6	第17回日本加速器学会年会（PASJ2020）	愛媛県民文化会館（愛媛県松山市）	
8/30–9/4	LINAC2020—The 30th LINAC Conference	Liverpool, UK	https://www.cockcroft.ac.uk/archives/tag/linac/
2021 年			
5/23–28	IPAC21—The 12th International Particle Accelerator Conference 2021	Foz do Iguaçu, Brazil	
8/9–11	第18回日本加速器学会年会（PASJ2021）	群馬県コンベンション施設 G メッセ群馬（群馬県高崎市）	
10/7–11	ICALEPCS2021—The 18th International Conference on Accelerator and Large Experimental Physics Control System	Shanghai, China	

■会告

□議事録

■第17回総会議事録案

日　　時：2019 年 8 月 1 日（木）17:50～18:40

場　　所：京都大学百周年時計台記念館　百周年記念ホール

出席会員数：委任状29 通，出席者数170 名　合計199 名

議　　事：

0. 羽島会長より，委任状29 通，現在の出席者数170 名で合計199 となり，会員数930 名の10 分の1 を超えているため，定款第4 章35 条の定めにより総会成立の旨，宣言があった．

1. 羽島会長より，開会宣言にかえて挨拶があった．まず学会の1 年を振り返り，学会誌記事のダ

ウンロード状況や，学会アカウントの Twitter 開始が報告された．また昨今の学会離れの中でも加速器学会は会員が増加傾向にあり，やや財政上は厳しい状況になってきているため，将来的に会費値上げの可能性があることが説明された．

2. 宮本広報・ウェブ幹事より広報委員会の活動報告があった．広報委員会では例年に引き続き，学会ウェブページの情報更新，年会の発表申込・プロシーディングスの編集公開の対応を行っている．また，年会前にマイページを学会トップページに設置し，メールアドレスとパスワードでログインすることで，会費支払い状況の確認や，学会登録の所属変更などができることが説明された．（初回ログイン時は，パスワード再発行を行う．）以前より PDF 化，編集作業が進められていたリニアック技術研究会／加速器科学研究発表会時代のプロシーディングスについては PDF 化が完了したため，暫定公開中である．「社会に役立つ加速器」コンテンツは，第13回年会特別講演の分のみ公開している．一方，国内の加速器関連施設のページは情報が古くなっているものがあり，所属施設についての最新情報の提供依頼があった．このほか，ウェブページ関係では，シニア世代研究者への経験聞き取りをオーラルヒストリーとして公開すること，第15回年会特別講演動画の公開，マイページと学会誌・年会ページ認証の統合を計画している．

年会プロシーディングスについては，発表者に編集作業協力を呼び掛けており，8月1日に説明会を行った．現在のプロシーディングスの提出率は79.5％であることが報告された．

3. 柏木編集幹事より編集委員会活動について報告があった．編集委員に交代があったこと，学会誌を計画通り発行していることが報告された．次の特集号は「加速器と超伝導技術」を予定して編集作業を進めている．また，ダウンロード数が多かった学会記事について紹介があった．学会誌広告について募集を行っている．

4. 古屋庶務幹事より，学会で協賛・共催・後援した会議等と，会員数の増加について報告された．昨年の総会で紹介した加速器中性子連携タスクフォースでは学会誌への寄稿等を行い，今後は加速器駆動型中性子発生装置の概念設計および目的別設計を系統的に 議論し体系化を進める．軍事研究規制等に関するタスクフォースでは2回会議を行い，その内容をもとに評議員会で議論した結果を学会誌に掲載した．今年度中に会員アンケート，2020年の年会でパネルディスカッションを予定している．ほか，東レ科学振興会の候補者推薦学会に登録されたため，学会からの候補者を受け付けていることが説明された．今年は会長・評議員選挙があるため，選挙管理委員会設置の報告と，予備選挙・本選挙の予定日程について説明があった．

5. 西森行事幹事より，行事委員会と年会準備状況について報告があった．第16回年会の事前登録状況は参加410名，懇親会210名で，口頭発表73件，ポスター300件，施設現状報告ポスター35件，年会賞の応募37件，特別講演は京都大学博物館の塩瀬隆之氏に依頼した．学会賞は総会後に授賞式と3件の受賞講演，技術研修会は2件となっている．企業展示は58小間分，プログラム集広告は9件のご協力をいただいた．合同セッション4件，口頭発表件数の設定は発表申込数に比例して決定していること，会場面積の都合によりポスターを3日としたこと，「萌芽的加速器技術の提案」にショートプレゼンを新設したことのほか，新たな試みとして企画セッションを「加速器中性子源の現状と展望」のテーマで行ったことが報告された．

来年の第17回年会は2020年8月4日～6日，愛媛県松山市の愛媛県民文化会館で行う．見学は愛媛大学，住友重機械工業等の関連施設を予定しており，実施体制としてはいずれも高輝度光科学研究センターの中村剛氏が組織委員長，大竹雄次氏がプログラム委員長，増田剛正氏が実行委員長であるが，現地実行委員がいないため，会員の協力をお願いしたい．2021年の第18回年会は，量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所と群馬大学の共催で，群馬県コンベンション施設での開催を予定している．第18回年会の組織委員長は量子科学技術研究開発機構の齋藤勇一氏である．

続いて，今回より年会プロシーディングスの締切延長を廃止したことが説明された．

6. 長谷川会計幹事より，会計報告がなされた．まず2018年度の決算について，会員数が微増で若干増えたことで予定よりややプラスになっている．4年分をまとめて税申告したうち，2016年度

は消費税の還付となった．支出については，学会誌出版費は業者変更等の理由により，予算より高くなった．また，年会の支出は収入と比べると約37万円の赤字になっている．また，事務局の委託先が変更になったことにより定額制から作業ごとになったこと，また加速器学会においても税申告が必要であることがわかったため，2018年より過年度分も含めて支払いを行ったことが説明された．差額としては1,371,791円の赤字となっている．5月に監査を行い，監事の大熊春夫氏，早川建氏に承認をいただいた．2019年度予算については会員数に基づいた収入とし，学会誌広告数の減少傾向を反映したほか，2018年度の支出状況と今年度の年会の収支を反映して設定した．最後に，納税対応が必要となる源泉徴収税，消費税，法人税について課税対象・金額について簡単な説明があった．

質　　疑：

会員：学会のTwitterで論文を宣伝してほしい場合はどうすればよいか．

羽島会長：TwitterにDMを送るか，会長あてに連絡をしてください．

会員：学会は研究活動を行うためのものであり，経費削減よりは会費を上げても必要なことは支出したほうが学会としても会員としてもよいと思う．

羽島会長：有難うございます．支出すべき部分を精査しているところです．

長谷川会計幹事：委員会のお弁当を廃止するなど，削減できるところは削減して，検討していきたいと思います．

会員：1千万を超える場合は消費税がかかるというが，それほど収入があるのか．

長谷川会計幹事：不課税以外の企業展示，懇親会，非会員参加費等が対象となるため，全て足すと超えてしまっています．

■第29回日本加速器学会評議員会議事録

日　　時：2019年7月31日(水)12:30～13:30

場　　所：京都大学イノベーション棟5階5a・5b会議室

出席者：羽島　良一（会長，量子科学技術研究開発機構），宮本　篤（広報幹事，東芝エネルギーシステムズ(株)），柏木　茂（編集幹事，東北大学），古屋　貴章（庶務幹事，高エネルギー加速器研究機構），西森　信行（行事幹事，量子科学技術研究開発機構），長谷川　和男（会計幹事，日本原子力研究開発機構），上坂　充（東京大学），浦川　順治（高エネルギー加速器研究機構），大垣　英明（京都大学），大竹　雄次（高輝度光科学研究センター），加藤　龍好（高エネルギー加速器研究機構），神谷　幸秀（高エネルギー加速器研究機構），金正　倫計（日本原子力研究開発機構），黒田　隆之助（産業技術総合研究所），阪井　寛志（高エネルギー加速器研究機構），白井　敏之（量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所），仙波　智行（株式会社日立製作所），田辺　英二（株式会社エーイーティー），内藤　富士雄（高エネルギー加速器研究機構），中村　剛（高輝度光科学研究センター），野田　章（量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所），花木　博文（高輝度光科学研究センター），浜　広幸（東北大学），山口　誠哉（高エネルギー加速器研究機構）

議　　事：

0. 羽島会長より第8期評議員のうち18名出席により評議員会の定足数を満たしたため，評議員会が成立したことが宣言された．

1. 宮本広報・ウェブ幹事より，委員会の活動と過去プロシーディングスの編集，年会発表申込システムについて例年通り運営していることが説明された．過去のプロシーディングスについてはPDF化を完了し公開を行った．学会ウェブページはhttpsに移行したが，検索方法によっては残してあったhttpのページが表示されてしまうため，不必要なデータについては削除したことが報告された．第15回年会の特別講演と，オーラルヒストリーについては，データが揃っているので，「社会に役立つ加速器」ページでの公開にむけて編集準備中である．

ほか，国際文献社の提供するマイページ機能の運用開始が報告された．マイページでは学会のホームページからログインすることで，自分の会費の支払い状況の確認や，登録連絡先の変更等が

可能である．将来的には年会参加登録や学会誌の閲覧と連携できるように考えている．また，今年は8月中旬より選挙が控えており，その準備も行っている．

花木評議員より，古いプロシーディングスについて著者やタイトルの検索は出来るか質問があり，宮本幹事より今のところはまだ対応できていないため目次からたどるしかないが，Google の内部検索等で対応できるように将来的には考えているとの回答があった．

2. 柏木編集幹事より編集委員会報告として，長年編集委員をつとめた大熊氏が退任するなど，委員の交代があったことが説明された．学会誌発刊は1週間程度遅れることはあったものの，予定通りの号を発行出来ており，今後も継続して刊行を行う．第12巻以降は毎年，1月発行の4号を特集号にしており，今年は「超伝導」をテーマとした．

発行から1年を経過したバックナンバー記事は会告以外，非会員でも閲覧できるようにし，1年以内の記事は編集委員会で選んだ記事のみ公開している．続いてダウンロード件数が多かった記事が紹介され，非会員の閲覧が予想以上に多いとみられることが説明された．ダウンロード件数の結果は今後の学会誌編集方針にも役立てたい．学会HP 以外の記事閲覧方法としては，J-STAGE 等の利用も検討している．学会誌広告については，1年契約の広告が少なくなってきており，評議員から企業への声掛けの依頼があった．学会誌記事をダウンロードするときに表紙に広告をつけることも検討している．

加藤評議員より，ダウンロード件数は一般の会員でも確認できるのか質問があり，柏木編集幹事よりダウンロード件数の集計方法にはまだ検討の余地もあるため，今は基本非公開とし今回は総会でトップ10を発表するとの回答があった．

3. 古屋庶務幹事より，学会から共催・協賛・後援したイベントと，会員数について報告があった．続いて，1名の入会承認依頼があり，認められた．また，4月に開催された前回の評議員会にて，強制退会の対象となる会費未納者7名を報告したが，その後，評議員からの声掛けもあり3名は継続となり，4名は退会となったことが説明された．続いて，学会賞受賞者について説明があった．表彰式は明日の総会の後に行う．

ほか，日本中性子科学会との連携について，学会誌への寄稿，研究会等で活動を進めており，この年会の最終日にも企画セッションを開催する旨の報告があった．

軍事研究 TF については，4月の評議員会での議論を学会誌議事録に掲載するほか，これから会員へのアンケート，2020年の松山年会でパネルディスカッションを予定している．

また，会員あてにメール配信して告知した，東レ科学振興会の授賞推薦について候補選出学会となった経緯の説明と，推薦についての説明があった．選考委員は学会賞の選考委員を務めた方にお引き受けいただくことになった．

今年度の選挙について説明があり，選挙管理委員を今回被選挙権のない浦川氏，内藤氏，筒井氏にお引き受けいただいたこと，8月中に選挙の案内を配信・送付，9月開票・本選挙送付で，順調にいけば10月に本選挙の開票を行うことが説明された．選挙管理委員は承認された．

山口評議員より，軍事研究 TF で2020年度に企画セッションを行うことについて，具体的にはどのようなイメージか，また，どの程度の時間か質問があった．羽島会長より，総会ではなく，学会セッションで行い，会員の理解を深める内容にしたいとの回答があった．

4. 西森行事幹事より年会の状況について報告があった．今回から新カテゴリのポスター発表について，ショートプレゼンを追加した．企画セッションを新たに設け，今年度は「加速器中性子源の現状と展望」というテーマである．

来年の年会は，8月4日～6日（見学7日），愛媛県松山市に確定し，組織委員長中村剛氏（高輝度光科学研究センター），プログラム委員長大竹雄次氏（高輝度光科学研究センター），実行委員長増田剛正氏（高輝度光科学研究センター）のほか，松山近辺を出身地としている会員に協力いただいていることが説明された．会場費は250万円，設営費は500万円程度の見積となっているが内容を精査することで例年通りになることが見込まれる．松山では県と市から補助金をあわせて120万円程度申請可能となっている．当日アルバイトは，愛媛大学の学生を募集する．見学は愛媛

大学，松山周辺工場，住友重機械工業や周辺施設を候補に打ち合わせを行っている．懇親会は道後温泉の旅館で，7,000円程度であり，懇親会出席者は館内の温泉が無料で利用できる．

2021年の第18回年会は群馬県高崎市の群馬県コンベンション施設Gメッセ群馬にて，量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所・群馬大学の共催を予定している．期間は8月9日～11日（見学8日）である．組織委員長は齋藤勇一氏（量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所），実行委員長は倉島俊氏（量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所）または群馬大学の関係者を予定している．

メインの講演会場では500席と200席を確保しており，会場費は250万円程度となる．見学は量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所で40名程度，群馬大学重粒子線医学研究センター150～200名程度を予定している．懇親会は会場に近いエテルナ高崎を検討している．

続いて，年会発表の際に共著者にチーム名を入れることの是非について，幹事会で状況確認と検討を行い，結論として，最低1名は個人名であれば受け付けることになったことが報告された．また，チームについては，謝辞等に構成員を明示することを推奨する．

2022年の第19回年会について，九州大学より前向きな返事をいただいていることが報告された．

黒田評議員より，軍事研究に関する議論を年会会期中に行うことを考えると，アンケートを早めに行い，年会の第1回プログラム委員会を開催する12月までには，企画セッションの大枠だけでも決めておく必要がある，との意見があった．

5. 長谷川会計幹事より，4月に提示して仮承認を受けた2018年度決算案から変更点はなく，監査が完了後，評議員によるメールでの正式承認を受け，税務処理も完了した旨の報告があった．

2019年度予算についても4月案から変更はない．6月までの実績で，学会誌は約20万円程度の予算超過，法人税・消費税は予算通り，国際文献社の事務業務費は月割り22万5千円程度でおおむね予算通りになると思われる．オーラルヒストリーは今年度から出費が発生する．

ほか，予算計上していなかった選挙対応の費用が10万程度かかることがわかった．総合的にみると，編集がやや予算オーバーしていることもあり，年会の黒字化にも期待したい．

参考に，これまでの収支の推移を掲載した．年ごとに特別な入出金があるものの，支出は増加傾向にあり，このままでは赤字は避けられない見通しである．

羽島会長より，繰越金の減少について精査したこと，年会では企業展示を値上げして赤字幅を少なくしたことが補足された．

阪井評議員より，学会誌は年4回を必須としているのか，3回程度ではどうかとの提案があり，羽島会長より必須ではないが，ダウンロード数を見る限り需要はあると思われ，また，学術団体として学会誌を出すべきとのコメントがあった．また，編集に関しては，なるべく編集委員会でできることをするようにし，経費削減を心掛ける方針が説明された．栗木評議員からは，会員数も増えているため，会員サービスを減らすのではなく，サービスはそのままで会費を値上げするほうがよいのでは，との提案があった．

大垣評議員から，経費削減するならば，どこからどこまでを学会が対応し，国際文献社に依頼するのか精査する必要があるとの意見があった．

会費を値上げする場合は，最短でも来年の総会で方針，再来年から開始となる．

黒田評議員より，消費税が10％に上がることを想定した予算も必要であることが指摘された．

■会員移動（2019年7月～9月）

〔一般会員入会〕
斎藤　勇一（量子科学技術研究開発機構）
菊池　祐亮（日本アドバンストテクノロジー(株)）
平野　広太（三菱重工業(株)）

〔学生会員入会〕
浅見　高史（東京大学）

〔賛助会員入会〕
(株)CICS

〔退会〕
5名

■編集後記

2008年4月から日本加速器学会の編集委員を務めさせていただき，編集委員になってから12年目になります．企業所属の編集委員のため原稿分類では賛助会員のページを担当することが多く，年会の企業展示中に投稿依頼を行いご協力いただきました．賛助会員の企業の皆様には，新技術および新製品の紹介の良い機会となりますので，是非賛助会員のページを活用されることをお奨めします．

これまでに担当した記事については，レビュー記事および年会での技術研修会の記事を担当することで，関連の参考文献をチェックする機会もできて，長文の原稿については確認作業にかなり時間がかかりましたが，その分とても勉強になったと感じています．2020年1月発行予定の加速器と超伝導技術の特集号の担当に指名されているので，発行前に原稿を確認するのを楽しみにしています．

前号で担当した，IFMIF原型加速器の現状報告については，5 MeV/125 mA の加速に成功とのプレスリリースが丁度あったところで，タイムリーな記事掲載ができました．IFMIF加速器については，初期の検討時期に少し関わった経緯もあり，国際協力，加速器と社会および後継者育成の観点からも印象に残っています．

「後継者育成」「加速器と社会」「国際協力等」については，本学会誌の巻末に記載されている原稿の分類にあります．今後の学会活動を，さらに活性化して将来計画の立案にも役立てる意味でも，是非活用いただきたいと考えています．

東芝エネルギーシステムズ株式会社
中山　光一